

No.449

ねん たてやま
55年ぶり！立山のナンジャモンジャゴケ

ナンジャモンジャゴケとは、へんてこな名前ですね。「なんじゃもんじゃ」は、「正体不明なもの」という意味です。コケ植物の専門家が北アルプスで初めて見つけましたが、どのコケ植物にも似ていません(写真)。高さは1cmほど、葉は棒状で細胞が1列にならんでいます。ほとんどのコケ植物にある仮根(根にあたるもの)はなく、とても単純な体をしています。藻類、シダ植物、地衣類、種子植物の各専門家が調べましたが、どれにも当てはまらず、最も似ているコケ植物におちついたといういきさつがあります。現在は原始的なコケ植物と考えられています。



5mm

たてやま
立山のナンジャモンジャゴケの群落

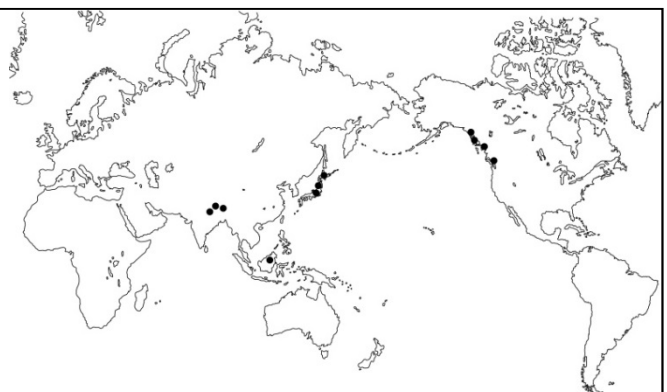
ナンジャモンジャゴケが長野県側の白馬岳で採られたものをもとに科学雑誌に初めて発表されたのは、1958年です。富山県では、1959年に立山連峰の龍王岳と鬼岳の間で見つけられました。その後は生育しているのかわかりませんが、私が2014年に探しに行ったところ、当時と同じ場所で見つけることができました。そこはハイマツと岩の陰で薄暗く、ハイマツの湿った落ち葉の上です。高山では強風が吹きますがナンジャモンジャゴケは岩とハイマツのおかげで風にあたらず、冬に気温がマイナス20度を下まわる時でも雪の下にいますので0度ほどで越冬しています。生長できるのは雪のないわずか3~4ヶ月間とはいえ、ナンジャモンジャゴケのはばしよおだかんきょうのようす。しかも、それは55年の間も変わらなかったのだと考えられます。(坂井奈緒子)



ぼうのような葉

ほかにもあるへんてこぶり

- 最初はコケ植物のタイ類(ゼニゴケのなかま)というグループでしたが、セン類(スギゴケのなかま)に移りました。
- 染色体の数は陸上植物の中で最も少ない、たったの4本です。
- 生育地は互いに遠く離れています。



●：世界のナンジャモンジャゴケの生育地